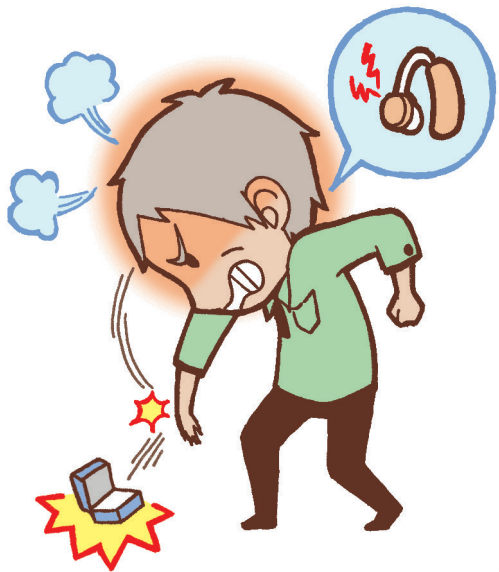




診察室 ざっくばらん



イラスト・野畑桃花

難聴に合わせ

微調整が必要

不便さなくすく補聴器

患者さんで、難聴のひとつは多い。訴えを聞くにも、診察するにも苦労する。補聴器を持っているなら、ぜひ使ってもらいたい。

ある日、読者のAさんから一通の手紙をもらった。年齢は不詳だ。難聴で、ふたりの医者に診てもらった。どの医者も、「補聴器を使え。ほっておけば認知症になる」とこっぴどく迫ったぞうだ。仕方なく補聴器を買った。最初は快適だったが、1週間もすると声がかすれ、耳鳴りがする。体までだるくなってきたぞう。もう、使えない。

補聴器屋に掛け合ったら、医者にお墨付きをもらって販売しているぞう。熱心に補聴器を勧める医者は、

連帯した業者からリベートをもらっているのではないかと聞いたげである。ま、これが匿名の封書やツイッターなら捨て置く。でも、堂々と住所、名前も書いてあるのだ。返事を書くしかない。

まずは、補聴器の使い方の問題はなかったかどうかを知りたい。また、多くのひとがそうであるように、Aさんも補聴器の効果に期待を持ち過ぎていなかっただろうか？ かすれ声や耳鳴り、体の不調は、一時的にみられる補聴器の副作用のよつなものだろう。補聴器は、各人の難聴に合わせ微調整が必要だ。また、脳は補聴器という新たな刺激に順応するのに時間がかかる。使うことで、ストレスにもなる。慣れるには3カ月くらいかかるぞうだ。使い勝手が悪いなら、まずは耳鼻科の先生に診てもらおう。補聴器の使い方について、よく相談することから始めるべきだぞう。

それを1、2週間放り出すとは。まさに宝の持ち腐れではないか。難聴の不便さを少なくする手段は、今は補聴器しかないのである。聡明そうなAさんだ。が、ワケもなくひとを責めるのは悲しい。それほど、難聴とはツライ症状なのだろう。

(石黒修三 いしごろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身)